

2026 年 09 月 01 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【日米の金融政策】

9 月が始まった。

「夏休み相場」が終了し、今年（2026 年）の後半で、本格的に相場に臨むシーズンに入っ
た、ということだ。

+++++

注目していた 8 月下旬のジャクソンホール会議では、ウォーシュ F R B 議長が、利上げを
示唆する講演を行った。

今後（2026 年後半）の F R B の金融政策は、政策金利引き上げと見て良い、と判断してい
る。

その一方で、トランプ大統領は、中間選挙（2026 年 11 月）に向けて、金利を引き下げて欲
しい訳で、トランプ大統領の過去の例を踏まえると、トランプ大統領が F R B に利下げの圧
力をかける構図が想像できる。

これから中間選挙（2026 年 11 月）に向けて、トランプ大統領がなりふり構わぬ政策や対応
をする可能性は高い、と考えます。

つまり、F R B は利上げのスタンスなのだが、トランプ政権からは、利上げを阻止しようと
する横槍が入るのだろう、ということ。

+++++

7 月（2026 年 7 月 31 日金曜日）に、日本と米国の両政府が、円買いの協調介入を実施した
が、その後、ベッセント米国財務長官は、日銀の利上げを促す発言をしている。

米国にしてみれば、協調介入を行うことで、日本に対して「貸し」を作った。

この「貸し」を返してもらおう意味で、日本が米国に従うことを要求しているのだ、と考えま
す。

+++++

ところが、日本では、高市首相が、日銀に対して、利上げを行わないように圧力をかけている。

高市首相は、「積極財政」を標榜して、財政出動や国内投資を促したいのだから、日銀の利上げを拒んでいる訳だ。

こういった状況下で、日銀は、上述の米国からの圧力をうまく利用して、利上げに持ち込むようにするのだろう、と予想している。

+++++

今月（2026 年 9 月）には、F O M C と日銀金融政策決定会合が、両方とも予定されている。

両方ともに利上げになる可能性は高い、と考えます。

+++++

日銀は今後、政策金利を引き上げる行動に出る、と考えます。

しかし、マーケット（金融市場）の想定している範囲内での利上げであるならば、いわゆる「織り込み済み」の反応に終わる可能性も否定できない、と考えます。

換言すれば、マーケット（金融市場）が要求している日銀の利上げは、もっと迅速である、と考えます。

さらに、その利上げ幅も従来の 0.25%ではなく、それ以上の利上げ幅を望んでいるのだ、と考えます。

日本が、早々に政策金利を引き上げる、そして、その利上げ幅も相応にする、といった金融政策を採択しなければ、根本的な原因に変化が無いことを理由に、マーケット（外国為替市場）の方向性に変化が無いことも十分にあり得る、と考えています。

+++++

（2026 年 09 月 01 日東京時間 13：30 記述）